

付録

SDGs（持続可能な開発目標）

みなさんはSDGs（エスディージーズ）という言葉を聞いたことや、下のマークを見たことがありますか？

世界には、満足に水や食事を手に入れることができず、飢えに苦しんでいる人びとがたくさんいます。また、人間の活動により自然環境が変化したことで、たくさんの生き物が住む場所を失ったり、絶滅の危機にさらされたりしています。

SDGsとは、そのような世界の問題をかい決し、よりよい未来をつくるために、2030年にむけて、世界中のみんなで決めた17の目標です。

SDGsは、さまざまな問題に気づき、みんなで力と知恵を合わせていくための、道しるべとなります。

わたしたちが、いろんな人とかかわり合い、気づき、学び、行動していくことで、だれ一人として取り残されず、幸せにくらせる世界を作っていくことにつながるのです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



持続可能って？

今、自分のまわりのことだけでなく、未来のみんなや地球も今みたいに暮らせるということなんだよ。

わたしにできることはなんだろう？



2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)とSDGs

2025年、大阪市の夢洲で、大阪・関西万博が開催されます。テーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。世界中から集められた新しい技術やアイデアを体験することができ、SDGsの達成につながることをめざしています。みなさんもぜひ、2025年、「未来社会の実験場」を体験してみてください。



年	ごみしょりのうつりかわり	水道の歴史	下水道の歴史
	自分の家でごみのしょりをする		
1886		H.S.パーマー氏に上水道の設計をたのむ	
1889	市役所がごみのしょりを専門の人間にまかせる		
1890		・国の水道条例公布 ・上水道布設に関する議案が市会できる	
1894			コレラの流行などがきっかけで、大阪市の中心部の下水道整備を始める
1895		水道がはじめてできる 桜の宮水源地(じょう水場)より11月13日水を送りだす	
1900	「汚物掃除法」ができる 市役所がごみのしょりを始める (ごみ箱→肩曳車→船→海にする)		
1903	最初の焼却工場ができる		
1911			大阪市全体の下水道整備を始める
1914		柴島水源地(じょう水場)ができる	
1916	クレーンを使う焼却工場ができる		
1925			市岡抽水所(ポンプ場)で下水処理実験を始める
1933	焼却工場でしょりするごみが全体の10分の7になる		
1934	ごみ集めに馬力車が使われる		
1936	ごみ集めに初めて自動車が使われる		
1940			津守下水処理場、海老江下水処理場が下水処理を始める
1944	戦争でごみのしょりをやめる		
1946	ごみのしょりをふたたび始める		
1949		水質試験所 日本で最初の水道水質にかかる自己検査機関として設立	
1952	338g	地方公営企業法の施行により地方公営企業として発足	
1954		工業用水道が一部流れはじめる	
1955		工業用水道創設事業ができる	
1957	はじめてパッカー車が使われる	・水道法ができる ・庭窓じょう水場ができる	
1960	398g		なかま(東)下水処理場が下水処理を始める
1961			いちおか(西)下水処理場が下水処理を始める
1962	ポリ容器がごみ箱として使われ始める		
1963	日本で初めて機械を使った焼却工場ができる(住之江工場)		中浜(西)下水処理場、千島下水処理場が下水処理を始める
1964			住吉(今之江)下水処理場が下水処理を始める
1965	ごみの熱を利用して発電を始める (西淀工場)	697g	
1966	ごみ収集車へのオルゴン設置を始める		大阪市水道事業及び工業用水事業の設置に関する条例ができる
1967			今福下水処理場が下水処理を始める
1968		豊野じょう水場ができる	此花下水処理場が下水処理を始める

大阪市の環境年表

年	ごみしょりのうつりかわり	一人当たり 一日の ごみ量	水道の歴史	下水道の歴史
1969	・荷曳車をやめ、全部パッカ一車で集めるようになる ・鶴見処分地のうめたてを始める			
1970		1109g		じゅうはちじょう しょりじょう しょり はじ 十八条下水処理場が下水処理を始める
1972				ひらの 平野下水処理場が下水処理を始め、12か所の全下水処理場が運転を始める
1973	・鶴見処分地のうめたてを終える ・北港処分地北地区(舞洲)でうめたてを始める	1311g		
1977				南区(今の中区)が日本で初めて全てのトイレが水洗になる
1980	大正工場ができて、もえるごみは全部もやせるようになる	1660g		
1981			くにしま 柴島じょう水場高度じょう水処理パイロットプランができる	
1982				じゅりじょう こうきゅう しょり 12か所の全下水処理場で高級下水処理ができるようになる
1985	北港処分地南地区(夢洲)でうめたてを始める	1879g		
1988			じゅうはちじょう しょりじょう 配水情報システムができる	じゅうはちじょう しょりじょう 十八条下水処理場スポーツ広場ができる
1991	紙パック受付回収を始める	2275g		
1993				こううじょうほう 降雨情報システムがはじまる
1994	大阪市全体で資源ごみ収集を始める			
1995	・容器包装リサイクル法ができる ・大阪市空き缶等の投げ捨て等の防止に関する条例(ポイ捨て防止条例)ができる	2257g	しゃうねん きねん きねんかん 通水100周年を記念し、水道記念館ができる	かがくかん 下水道科学館がオープンする
1998	「大阪市一斉清掃」を始める			
2000	・循環型社会形成推進基本法ができる ・まち美化パートナー制度を一部地域で始める	1892g	こうど しょり せんいき なが 高度じょう水処理水が市内全域に流れる	すみのえ ちゅうすいしょ 住之江抽水所(ポンプ場)(なにわ大放水路)が完成する
2001	・家電リサイクル法ができる ・舞洲工場ができる ・容器包装プラスチックの分別収集を一部の区で始める ・乾電池などの受付回収を始める			
2002	「ごみ減量アクションプラン」をつくる	1743g	水道局WTC庁舎でISO14001の認証を取得	
2003	「ごみゼロリーダー(大阪市廃棄物減量等推進員)」の制度を作って実施する			
2004	「まち美化パートナー制度」を全区で実施する	1709g	大阪臨海工業用水道企業団解散 大阪市が事業を引き継ぐ	まいしま 舞洲スラッジセンターが一部運転を始める
2005	・容器包装プラスチックの収集を全区で実施する ・マタニティウェア・ベビー服・子ども服の受付回収と展示提供を始める		すいしつけんじょ 水質試験所 日本で初めて水道GLP(水質検査優良試験所規範)を認定取得	たいこうせわり 太閤(背割)下水が大阪市指定文化財に指定される
2006	・粗大ごみ(大きなごみ)の収集が有料になる		3つのじょう水場でISO9001の認証を取得	
2007	「大阪市路上喫煙の防止に関する条例」ができる	1572g		
2008	・中身の見えるごみ袋でごみを出すように指定する ・「たばこ市民マナー向上エリア制度」ができる		水道局でISO22000の認証を取得 (公営水道事業体による組織全体での認証取得は世界初)	
2011	小物金属類の分別収集を3区(福島区・此花区・西淀川区)で始める			
2013	・古紙・衣類の分別収集を始める	1094g		
2014	・使用済小型家電の拠点回収を始める			

ISO : 会社や市役所などがものをつくりたり仕事をするうえで、環境や品質、食品安全などをよりよくする取り組みをしているかどうかの基準を決めた国際的なまりです。

おおさか環境科教材編集委員会

監修

長谷川 和 弘 大阪教育大学連合教職大学院特任教授
元大阪市小学校教育研究会会長
花田 真理子 大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授
増田 喬 史 なにわエコ会議事務局長

委員

村上 昌志 大阪市小学校教育研究会社会部代表(天下茶屋小学校長)
八木 宣行 大阪市小学校教育研究会理科部代表(矢田東小学校長)
池田 知之 大阪市小学校教育研究会生活・総合部代表(吉野小学校長)
鈴木 慶彦 大阪市中学校教育研究会社会部代表(野田中学校長)
渡邊 哲朗 大阪市中学校教育研究会理科部代表(茨田中学校長)
辻 元慶子 大阪市立環境科学研究センター研究員

教材編集部会 (小学校中学年)

小学校教育研究会社会部

代表 村上 昌志 天下茶屋小学校長 指導部 初等・中学校教育担当
上田 貢久 新今宮小学校教諭 教育センター 教育振興担当
米田 勝将 古市小学校教諭
武藤 亜由美 喜連西小学校教諭

教育委員会事務局

代表 村上 昌志 天下茶屋小学校長 指導部 初等・中学校教育担当
上田 貢久 新今宮小学校教諭 教育センター 教育振興担当
米田 勝将 古市小学校教諭
武藤 亜由美 喜連西小学校教諭

小学校教育研究会理科部

代表 八木 宣行 矢田東小学校長 総務部 総務課
稻井 雅大 大江小学校教諭 環境施策部 環境施策課
土井 智史 東田辺小学校教諭 事業部 家庭ごみ減量課
環境局

小学校教育研究会生活・総合部

代表 池田 知之 吉野小学校長
米澤 皓介 堀川小学校教諭

発行

『ごみと社会』 1978年9月 初版発行
2008年3月 28版発行
『へらそごみ 守ろう環境』 2009年4月 初版発行
2011年3月 3版発行
『おおさか環境科』 2012年2月 初版発行
2021年3月 10版発行

デザイン

ワコー・シー・アンド・ピー株式会社

有限会社ウェイク

秋田耕佑、河合典彦、大阪市立環境科学研究センター、大阪市立自然史博物館、気象庁、近鉄不動産株式会社、経済産業省、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所、中谷憲一、花と緑と自然の情報センター、平野友昭、辻元慶子



発行者 大阪市環境局総務部企画課

〒545-8550 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-5-1 あべのルシアス13階
TEL06-6630-3213 FAX06-6630-3580

本冊子は、2020年10月までの情報をもとに作成しています。ご不明な点は発行者まで

※本書に掲載されている、写真・イラスト及び記事は、著作権の対象となっています。原則、著作権は断りがない場合すべて大阪市に帰属しており、一部の画像等の著作権は、原著者が所有していますので、無断での使用や転載を禁じます。私的使用のための複製や、引用など著作権法上認められた場合を除き、本書を複製・転載する際は、必ず事前に上記発行者までご相談ください。